

【取組事例】

鳥取市立美和小学校

＜1学年1学級規模
5・6年担任の授業交換による教科担任制＞

1 指定校の概要

(H29.4.1 現在)	1年	2年	3年	4年	5年	6年	支援学級	計	(H29.5.1 現在。臨時的任用の者は常勤の者のみ含む) 教員数 16名
学級数	1	1	1	1	1	1	3	9	
児童数	20	16	16	29	24	33	5	143	

2 教科担任制の実施概要

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	1
6年1組	A	G	D(J)	A	A(D)	H	A	I	A	A	A	A	A
6年2組													
6年3組													

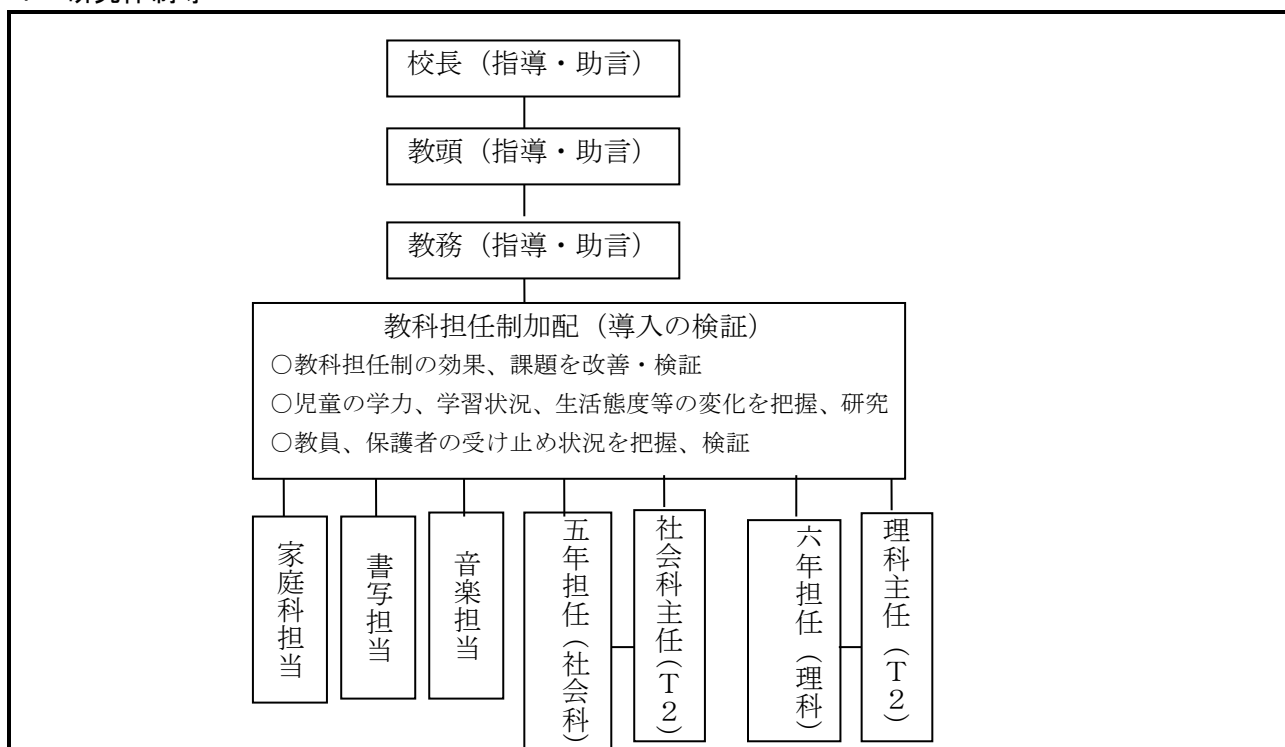
教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道徳	総合	学活	外国語
週時数	4	1	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	2	1	1
5年1組	D	G	D(J)	D	A(D)	H	D	I	D	D	D	D	D
5年2組													
5年3組													

※A=6年1組担任 B=6年2組担任 C=5年1組担任
D=5年1組担任 E=5年2組担任 F=5年3組担任 G～=担任外

3 研究の内容や方法等

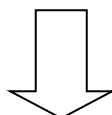
- ・5年生担任が5、6年生の社会科を、6年生担任が5、6年生の理科を担当し、2年間を見通した系統的な指導を行う。社会科については、専門的な知識や経験を豊富に持った教員がT2として入る。また、理科については中学校教諭として理科を教えた経験のある教員がT2として入る。このことにより、どちらの教科もT1へ教材研究の助言ができたり、中学校への系統立った専門的な指導を行ったりできることをねらう。
- ・家庭科、書写と音楽を級外教員が担当し、多くの目で児童を見守り、情報を共有することで組織的な指導を行う。さらに、教科数や校外行事も多く負担が大きくなりがちな高学年担当教員の負担軽減を図り、他の教育活動の充実をめざす。

4 研究体制等



5 2年間の取組概要と成果 <1学年1学級規模。5・6年担任の授業交換による教科担任制>

1年次の取組概要と成果	1年次の課題
<p><5年、6年担任による社会科・理科の授業交換></p> <ul style="list-style-type: none"> ・若手教員の学級で中堅教員による学習規律の徹底 ・昨年度に比べ、出欠状況は欠席が減少傾向 ・社会科、理科の単元テストの数値が高値で推移 	<ul style="list-style-type: none"> ・単学級同士の授業交換のため、同じ学習内容を複数回することはないので、教材研究の時間の確保が難しい ・学年が異なることによる学校行事の担任の動きの難しさ ・低学年、中学年の担任への情報提供の不足 ・アンケート結果から見える学習意欲の低下 ・低位の児童への補充学習をする時間の確保の難しさ



2年次の成果
<p><5年、6年担任による社会科・理科の授業交換></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科、書写と音楽を級外職員が担当し、多くの目で児童を見守り情報を共有することで組織的な指導ができた。 ・平成29年度中学1年生（1年次の6年生）のアンケートから、中学校の教科担任制へのスムーズな移行が行われ、中1ギャップの緩和に効果があったことがわかった。 【平成29年度 中学1年生（本校卒業生：1年次6年生）へのアンケートより】 「小学校と違って、教科によって先生が違う授業はどうですか。」・・・ 肯定的評価 95% 「小学校では、社会・理科を中心に専門の先生（担任外）が授業をする試みをしましたが、中学校での教科担任制に役立っていると思いますか。」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 肯定的評価 87% →中学校で多くの教員と関わることができて楽しく、専門性のある教員に教わることに満足感を感じることがうかがえる。また、小学校段階で担任外の教員とのコミュニケーションをとる経験にもなり、中学校の教科担任制への心理的準備ができていたという内容の記述が多く、いわゆる中1ギャップが緩和されていると考えられる。 ・教員が教室移動をする必要があるため、授業時間45分間を守ることを意識でき、焦点化されたメリハリのある授業構成を心がけることができた。 ・社会科、理科での学力向上に効果があった。 ・2年間の系統性を持った指導が行いやすい。 ・不登校、問題行動等もなく、児童が心身ともに落ち着いて生活することができた。

効果的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・社会科・理科ともに各教科で専門的な知識を持った教員（級外または特別支援学級担任）とのTT体制を組むことで、効果的な助言を得たり補助教材の作成を分担するなど協力して実施し、教科担任の負担軽減にもつながった。 ・学習発表会、運動会などの行事の練習時間の組み方を時数確保に配慮して計画的に行ったり、出張のときにはTTのうちのもう一方が授業を行うようにしたりし、授業時間数不足にならないように留意した。 ・社会見学では、5年担任と6年担任との密な情報交換を図り、有意義な行事となるようにした。 ・学校裁量時間の効果的な活用や家庭学習の連携を考えて低位の児童への学習補充を行った。 ・中学校区で教科担任制を取り入れた授業を公開し、低・中学年の担任や中学校区の教職員への情報提供を行った。